

臨 床 瑣 談

接 種 結 核 ノ 1 例 (患者供覽)

三 谷 恒 夫 (京都外科集談會昭和11年6月例會所演)

患者： 17歳男子。

主訴： 右鼠蹊下部ノ無痛性腫脹。

現病歴： 昨年12月(XII. 1935)初旬「アスファルト」ノ路面上ニ倒レ右膝蓋部ニ小ナル挫傷ヲ受ケ約1週間ニシテ一次性ニ治癒セリ。然ルニ同月下旬ニ到リ右膝蓋部ノ該部ニ無痛性ノ輕キ腫脹ヲ來タシ、且右鼠蹊下部ニ扁桃大ノ無痛性腫脹アルニ氣付キ、ソノ後約1ヶ月ニシテ更ニソノ下方ニ同様ノ無痛性腫脹ヲ生ジタ。此等ハ次第ニ膨大シ本年3月ニ到リテ自潰シ帶綠黄色ノ膿様液ヲ出シ今日ニ到ルモ治癒セズ。食思、睡眠共ニ良好デアル。

既往症： 生來全ク健康ニシテ著患ヲ知ラズ、性病ヲ否定ス。

遺傳的關係： 何等認ムベキモノナシ。

現症： 體格中等大、榮養佳良、全身全ク異常ヲ認メナイ。

血液像： 中等度淋巴球增多症(42%)アル外異常ナシ。

局所々見： 右鼠蹊下部淋巴腺部ニ2ツノ潰瘍ヲ診ル。ソノ四圍ハ暗赤色ニシテ治癒ノ傾向ヲ認メズ、潰瘍ヨリハ帶綠黄色粘稠ナル膿ヲ出セリ。觸ルルニ熱感ナク卵圓形拇指頭大ノ淋巴腺腫脹アリ。硬度ハ彈性硬ニシテ脹痛ハナク、表面ハ平滑ニシテ皮膚トハ癒着セルモ基底トハヨク移動ス。下方穿堀著明ナリ。右腸骨窩ニモ輕キ腫脹ヲ見、該部ニ血管ニ沿ヒタル拇指頭大ノ淋巴腺腫脹ヲ觸ル。

右膝蓋部ニ表面ヨリ稍々隆マレル示指頭大ノ腫瘤アリ、壓痛ナク數個ノ帽針頭大ノ淡赤色ノ結節ノ集合ヲ認ム。消息子先端ニテ壓スルニ陥沒ヲ生ズ。

診斷： 右鼠蹊下部腫脹ハ無痛性ナルコト、皮膚暗赤色菲薄ニシテ下方穿堀アルコト、昨年カラ生ジ慢性經過ヲトレル點ヨリ明ラカニ結核性淋巴腺腫ニシテ潰瘍ヲ作レルモノナリ。又右膝蓋部腫脹ハソノ臨床處見ヨリ明ラカニ接種結核ナリ。

考察： 「アスファルト」上ニ衝突シテ受ケタル挫傷ヨリ感染シ1ヶ月後ニソノ部ニ著明ナル接種結核ヲ作り、ソレヨリ上方ニ結核性鼠蹊下部淋巴腺腫ヲ作り、更ニ腸骨窩ニ於テ血管ニ沿ヘル處ニ淋巴腺腫ヲ作レル1例ナリ。